2009年12月13日（日）
上智大学・ARCLE応用言語学シンポジウム

学ぶ側の実態と課題

㈱ベネッセコーポレーション
Benesse教育研究開発センター

© Benesse Corporation, 2009

目次

1. 現行課程の高校生
   1. 学校外での姿
   2. 学校での姿
      (1) 学習全般
      (2) 高校での英語学習
      (3) 中学校での英語学習

2. 2013年高校1年生が経験する変化

3. 学ぶ側の課題

© Benesse Corporation, 2009

Benesse教育研究開発センター

■Benesse 教育研究開発センターWEBサイト

Web：

http://benesse.jp/berd/index.shtml

© Benesse Corporation, 2009

1.1.学校外での姿
①放課後の過ごし方

高校生の放課後での学習時間は1時間強程度

表1　高校生の生活時間（1日あたり・平均時間）

		睡眠	学習※	外遊び・スポーツ	友だちとすごす	メディア	部活動	アルバイト
全体		6時間35分	1時間17分	12分	2時間41分	5時間24分	1時間24分	12分
学年別	高１生 (n=948名)	6時間39分	1時間15分	12分	2時間40分	5時間12分	1時間27分	8分
	高２生 (n=874名)	6時間32分	1時間18分	13分	2時間43分	5時間37分	1時間20分	16分
性別	男子 (n= 860名)	6時間42分	1時間13分	15分	2時間14分	5時間06分	1時間34分	9分
	女子 (n= 945名)	6時間30分	1時間20分	9分	3時間06分	5時間40分	1時間14分	14分

62.7%の高校生は学習時間を増やしたいと思っている

【学習時間】
小学生　5・6年　　平均1時間11分
中学生　1・2・3年　平均1時間36分

※「学習」の平均時間は、「学校の宿題をする」「学校の宿題以外の勉強をする」の合計。
いずれかが無回答・不明の場合は分析から除いている。

出典：Benesse教育研究開発センター「放課後の生活時間調査　子どもたちの時間の使い方〔意識と実態〕」速報版、2009年

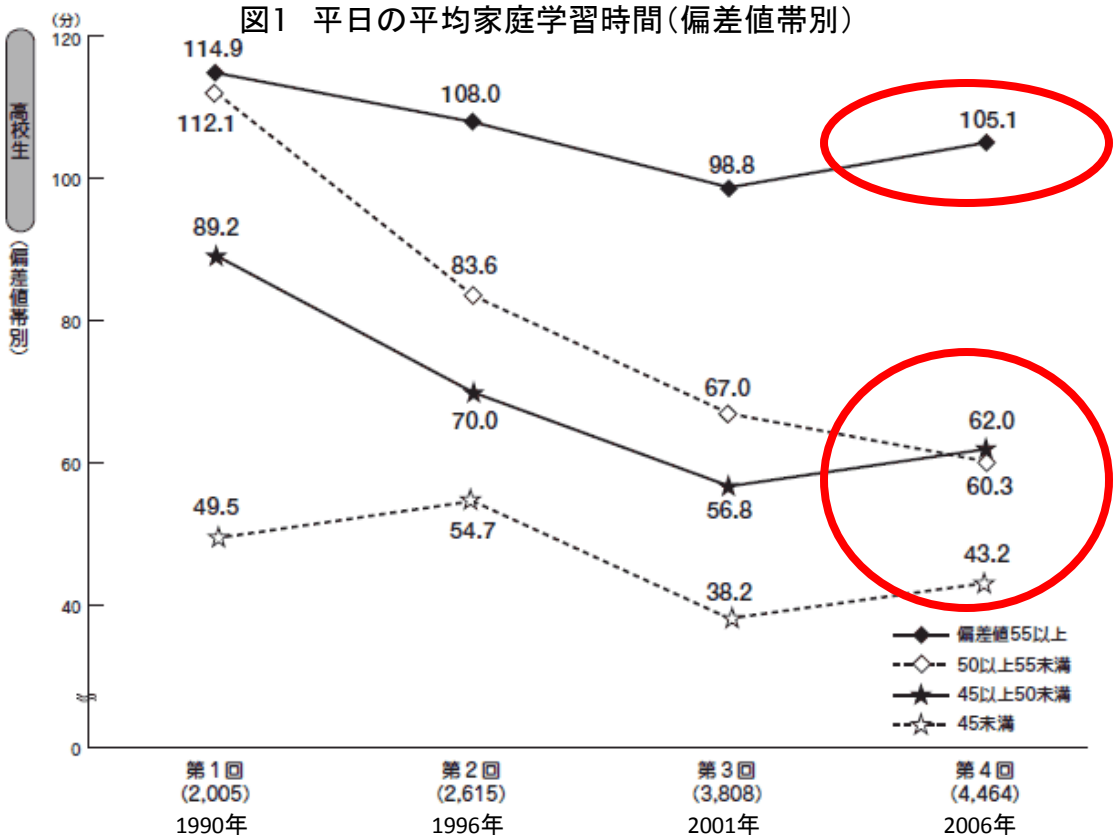
© Benesse Corporation, 2009

1.1.学校外での姿
②学習時間

学習時間は学力の上位層と中・下位層とで異なり、2極化の傾向

Q:あなたはふだん（月曜日～金曜日）、学校での授業以外に1日にだいたい何時間くらい勉強していますか。
学習塾や予備校、家庭教師について勉強する時間も含めてください。

図1　平日の平均家庭学習時間（偏差値帯別）



注1）高校生の偏差値は、弊社「進研模試」のデータを使用。
注2）（　）内は全体のサンプル数。全国4地域（東京都内、および東北・四国・九州地方の都市部と郡部）の高校2年生（普通科のみ）
高校の平均偏差値55以上は、第1 回422名、第2 回830名、第3 回1,462名、第4 回1,593名。50以上55未満は、第1 回621名、第2 回435名、第3 回824名、第4 回905名。
45以上50未満は、第1 回562名、第2 回231名、第3 回619名、第4 回416名。45未満は、第1 回400名、第2 回1,119名、第3 回903名、第4 回1,550名。

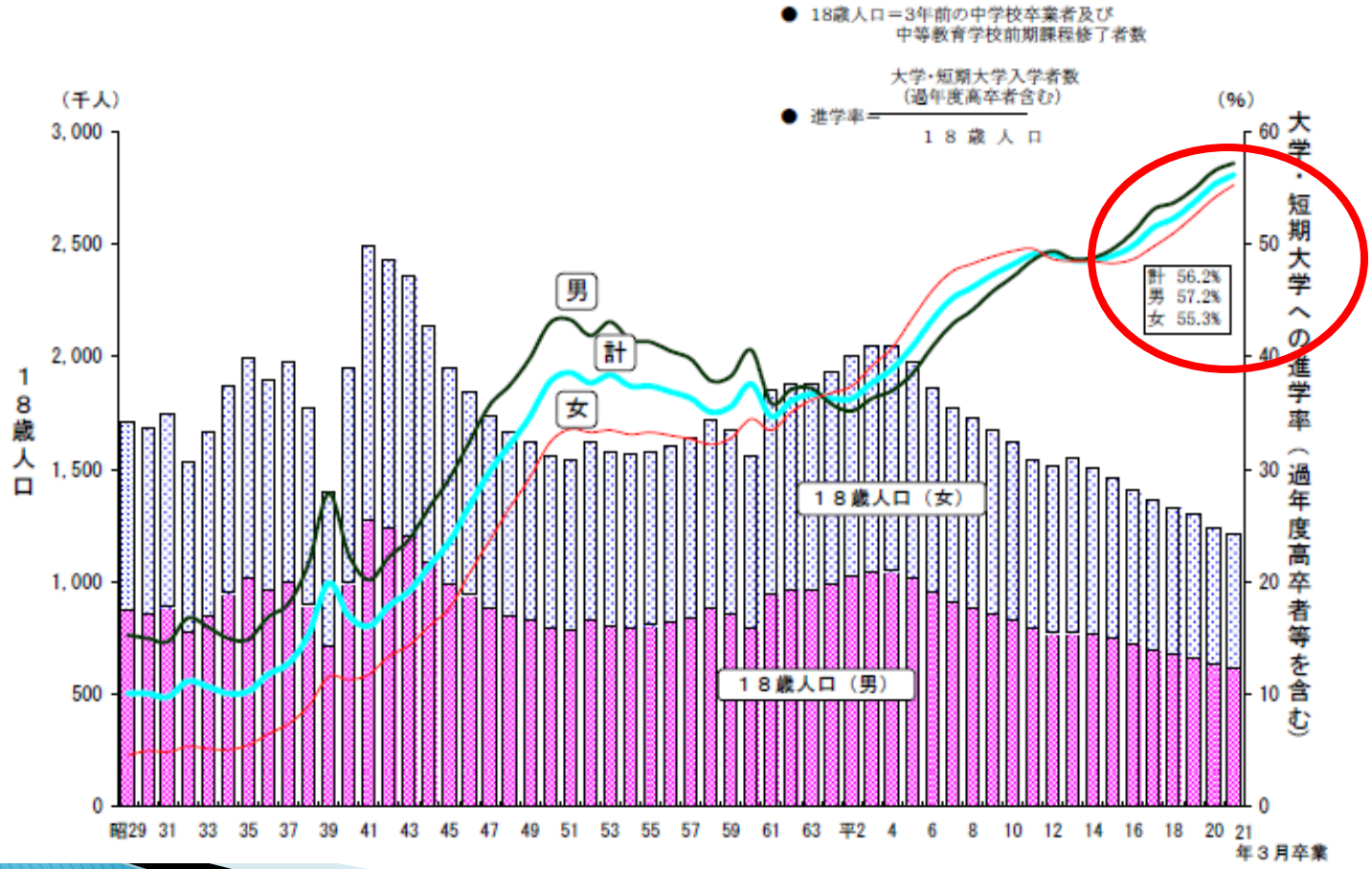
出典：Benesse教育研究開発センター「第4回学習基本調査・国内調査報告書・高校生版」2007年

© Benesse Corporation, 2009

1.2.学校での姿 （1）学習全般
①大学進学率

大学・短期大学への進学率は平成21年も5割強で、年々増加傾向

図2　大学・短期大学への進学率の推移



出典：文部科学省「平成21年度学校基本調査速報　参考図表」2009年

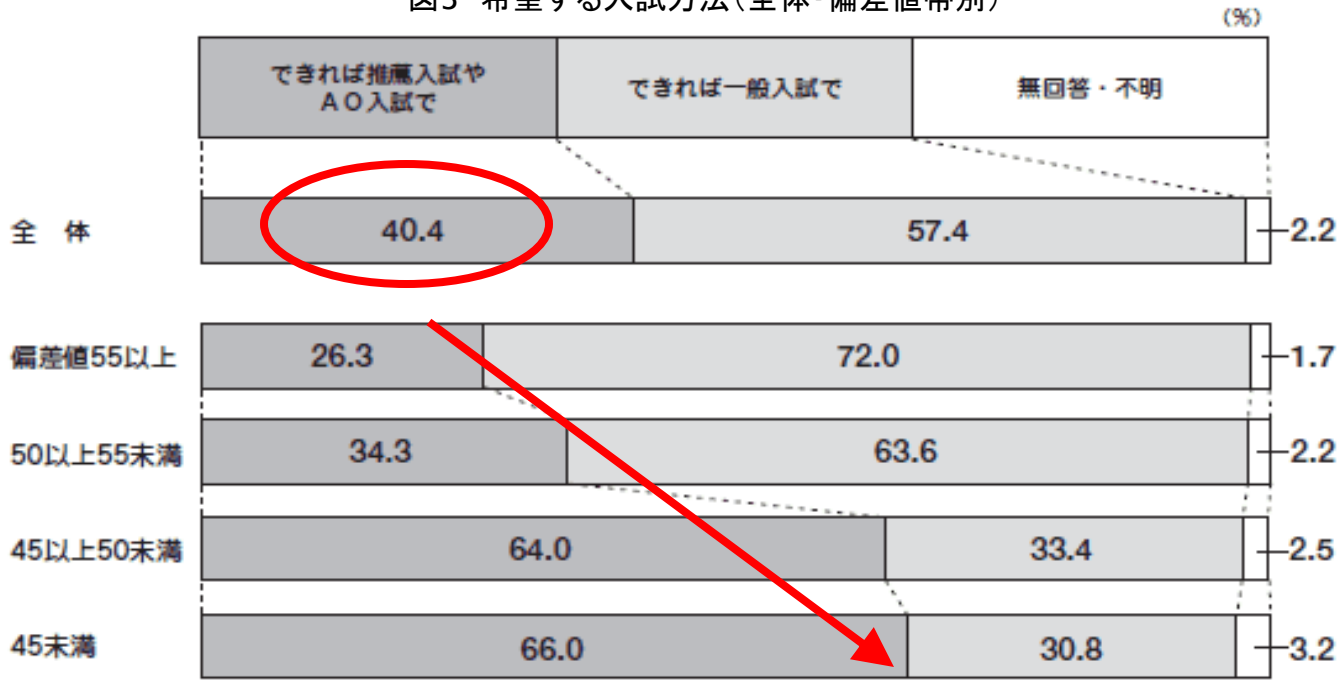
© Benesse Corporation, 2009

1.2.学校での姿 （1）学習全般
②希望する大学入試方法

推薦やAO入試を希望する高校生は4割程度。成績によって希望する割合が異なる。

Q:大学へ進学する方法には、大きく分けて「推薦入試やAO入試」と「一般入試」の2つの方法があります。
あなたは、どちらの方法で進学したいですか。あなたの希望にどちらかといえば近いほうの番号1 つに○をつけてください。
1．できれば推薦入試やAO入試で　　2．できれば一般入試で

図3　希望する入試方法（全体・偏差値帯別）



注）サンプル数は全体3,417名。偏差値55以上1,516名、50以上55未満837名、45以上50未満314名、45未満750名。
母数は、希望する進学段階が「四年制大学まで」「大学院まで」と回答した3,417名。

調査対象：高校2年生（普通科のみ）全国4地域（東京都内、および東北・四国・九州地方の都市部と郡部）。
高校生の偏差値は、弊社「進研模試」のデータを使用。

出典：Benesse教育研究開発センター「第4回学習基本調査・国内調査報告書・高校生版」2007年

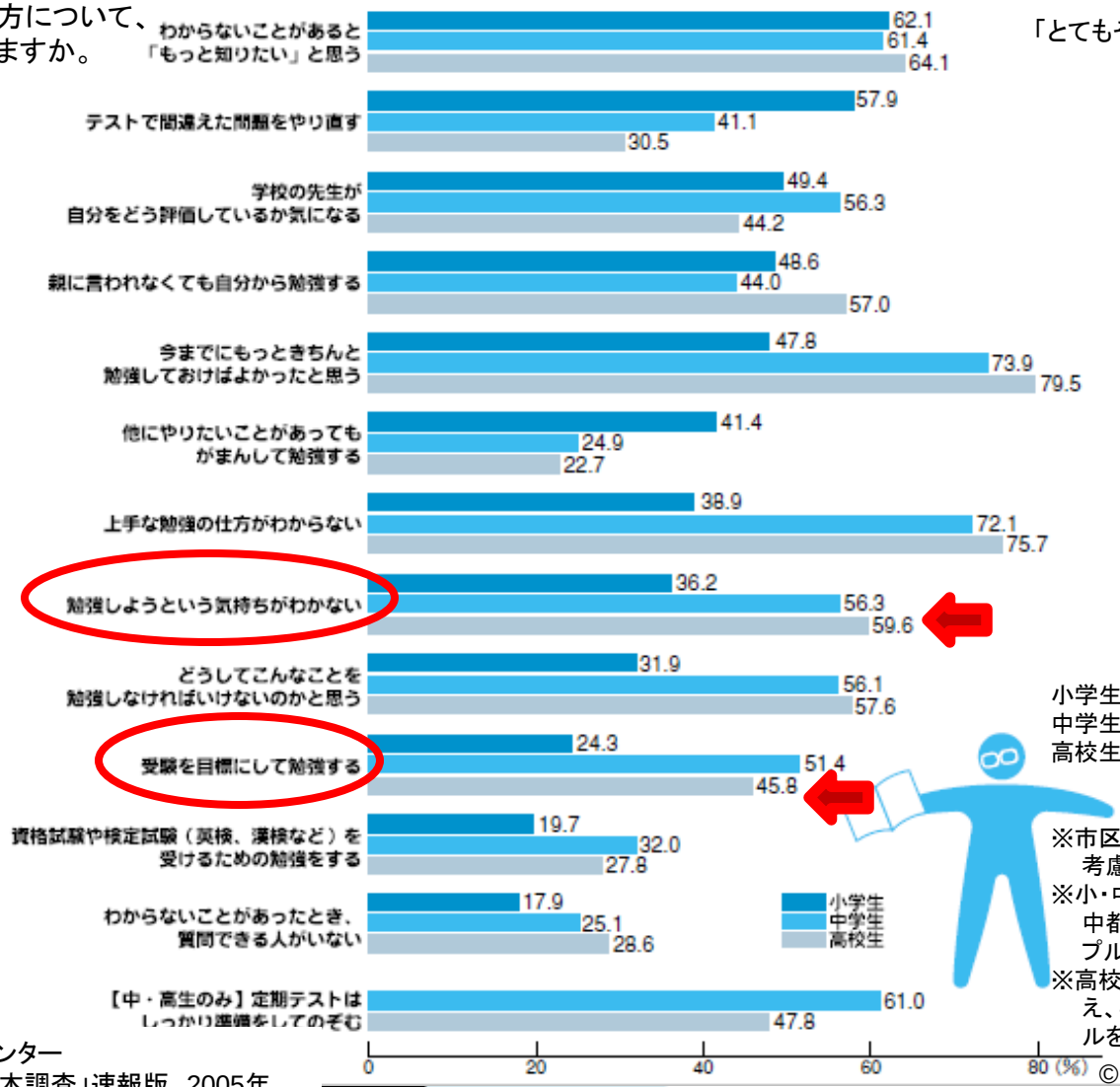
© Benesse Corporation, 2009

1.2.学校での姿 （1）学習全般
③勉強への意欲

高校生の約6割が「勉強しようという気持ちがわかない」を肯定
「受験を目標にして勉強する」が5割弱

Q:あなたは勉強の取り組み方について、次のようなことがあてはまりますか。

図4 学習の取り組み方



小学生（小4・5・6生）n=4,240名
中学生（中1・2・3生）n=4,550名
高校生（高1・2生、普通科のみ）n=6,051名

※市区町村の人口規模および人口密度を考慮した有意抽出法
※小・中学生については、大都市（東京都内）、中都市、郡部の3地域区分を設定してサンプルを抽出した。
※高校生については、上記の3地域区分に加え、学校の種別やランクを考慮してサンプルを抽出した。

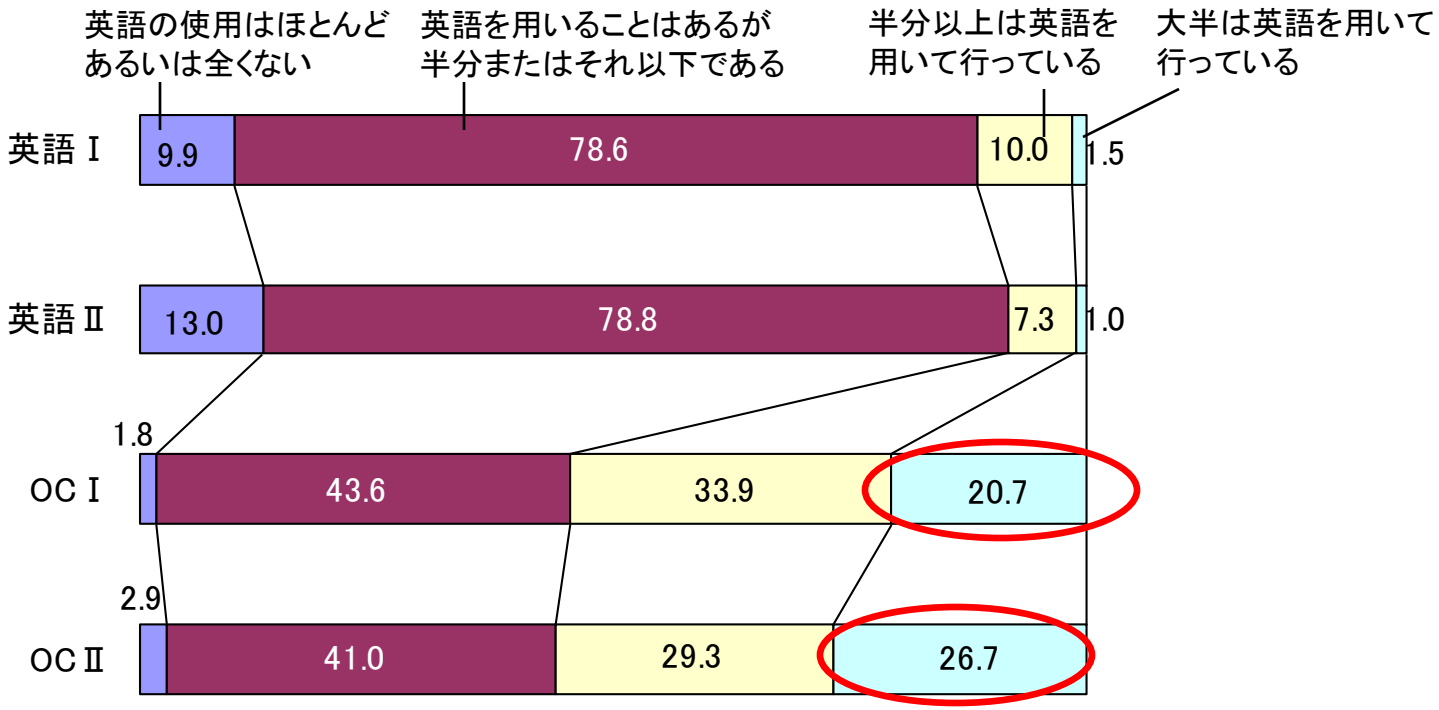
出典：Benesse教育研究開発センター
「第1回子ども生活実態基本調査」速報版、2005年

© Benesse Corporation, 2009

1.2.学校での姿 （2）高校での英語学習
①教員の英語使用

「大半は英語を用いて行っている」教員は、OCで5分の1から4分の1

図5　授業における英語の使用状況



n=「国際関係学科等とその他の学科等の併設校」「国際関係学科等は置いていない」を併せた3701校のうち、英語Ⅰ、英語Ⅱ、OCⅠ、OCⅡを実施している国際関係（語学を含む）以外の学科・コースについて（学校数）
（英語Ⅰ　n=3610校、英語Ⅱ　n=3436校、OCⅠ　n=3213校、OCⅡ　n=614校）

出典：文部科学省「英語教育改善実施状況調査（高等学校）」平成19年12月実施調査

© Benesse Corporation, 2009

1.2.学校での姿 （2）高校での英語学習 ②英語力

現行課程が目指す指導（新課程と基本的に同じ方向性）を
実践した学校では英語力が伸びている

図6　英語コミュニケーション力の3カ年推移

＜スコアの目安＞

540～　英語圏の2年制大学への留学に挑戦できるための最低限レベル

440～　短期の語学留学で英語圏に行き、授業についていくための最低限レベル

380～　英語圏へのホームステイや海外旅行に行って、英語体験を楽しめる最低限レベル

※ GTEC FSスコア：　GTEC for STUDENTS　TOTAL スコア
（Listening, Writing, Reading　合計）

※ 2005年度入学者の平均スコア　学年別推移

SELHi（Ⅳ～Ⅵ期）校	8,039名
ポストSELHi（Ⅰ～Ⅲ期）校	5,790名
その他の学校	42,586名

出典：ベネッセコーポレーション集計

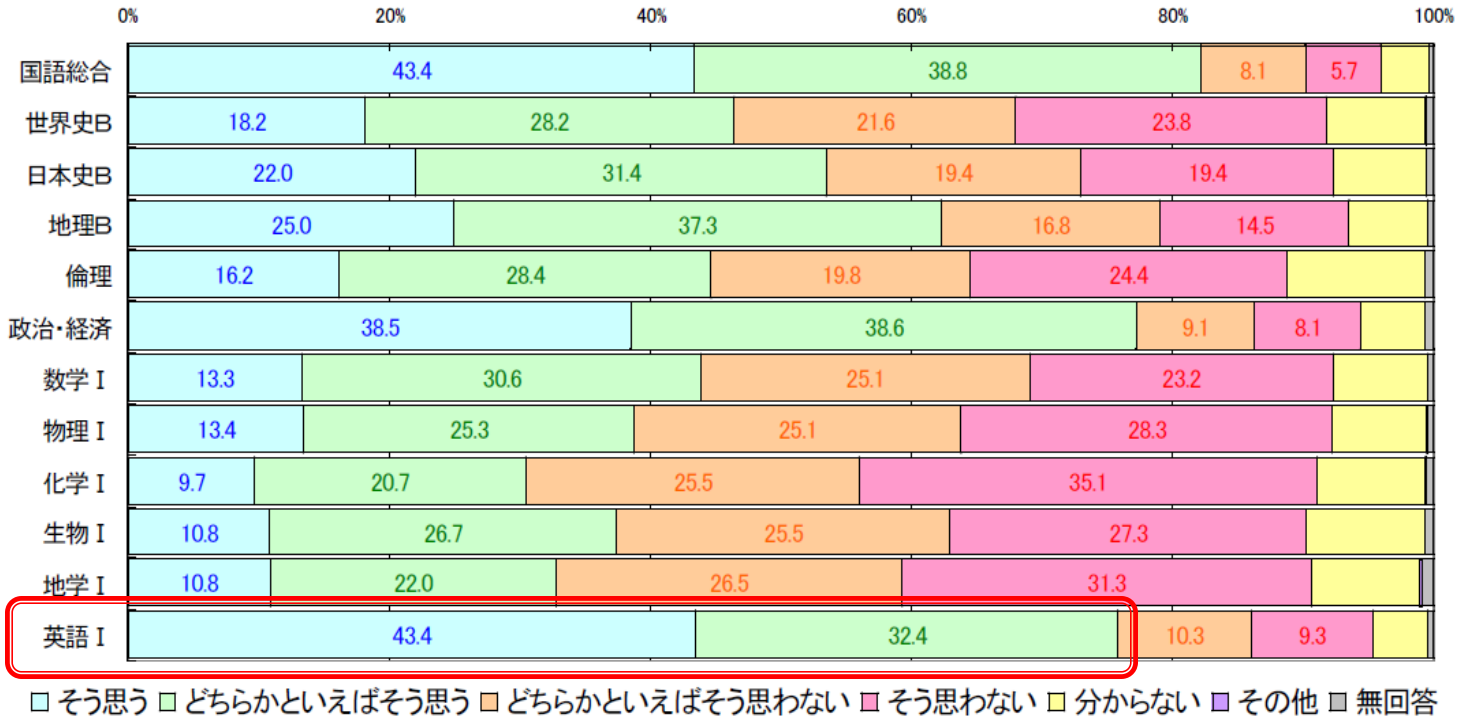
© Benesse Corporation, 2009

1.2.学校での姿 （2）高校での英語学習
③英語に対する意識

「入学試験や就職試験に関係なくても大切」と4分の3の生徒が回答し、
他の教科より高い。

Q:当該科目の勉強は，入学試験や就職試験に関係なくても大切だ。

図7　学習に対する意識



英語Ⅰ：n=29,880名、平成17年5月1日現在の国・公・私立高等学校（全日制課程）（中等教育学校の後期課程を含む）の第3学年

出典：文部科学省「平成17年度高等学校教育課程実施状況調査」平成17年11月実施調査

© Benesse Corporation, 2009

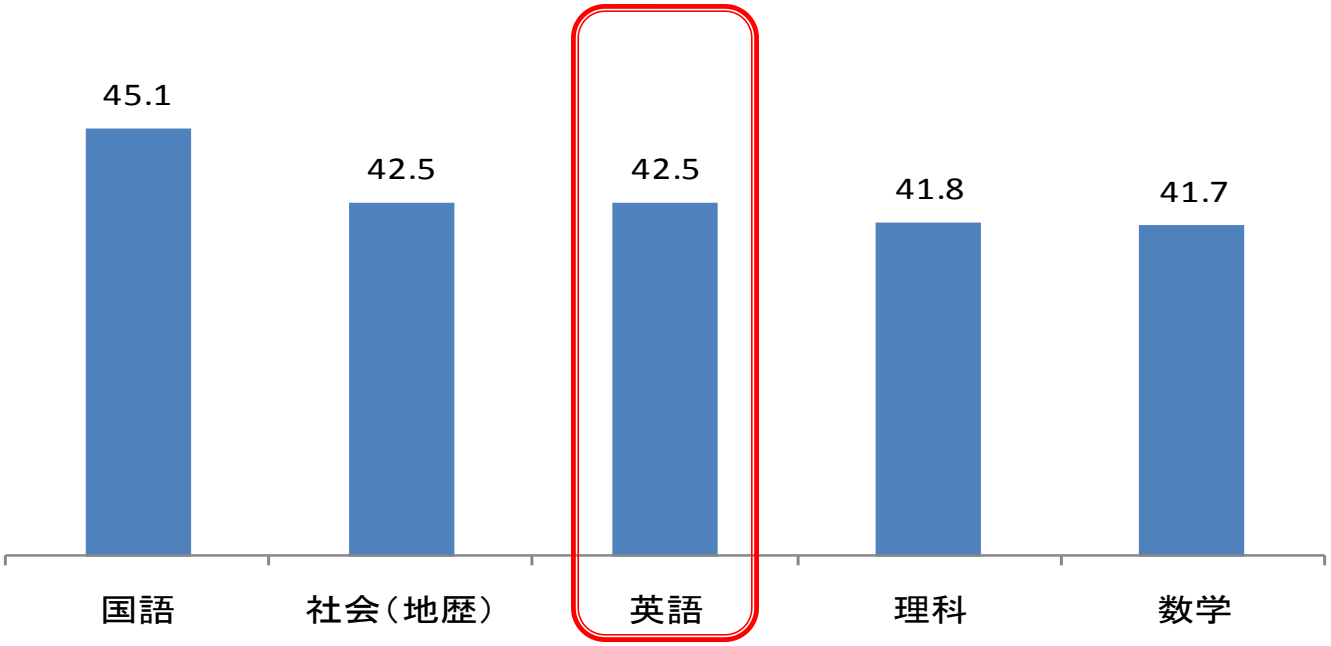
1.2.学校での姿 （2）高校での英語学習 ④英語の好き嫌い

「好き」は約4割程度で、主要教科とほぼ同じ割合。

Q:あなたは、次の教科や学習の時間の勉強がどのくらい好きですか。

図8　好きな教科

「とても好き」＋「まあ好き」の%



n=4,464名、全国4地域（東京都内、および東北・四国・九州地方の都市部と郡部）の高校2年生（普通科のみ）

出典：Benesse教育研究開発センター「第4回　学習基本調査　国内調査」速報版、2006年

© Benesse Corporation, 2009

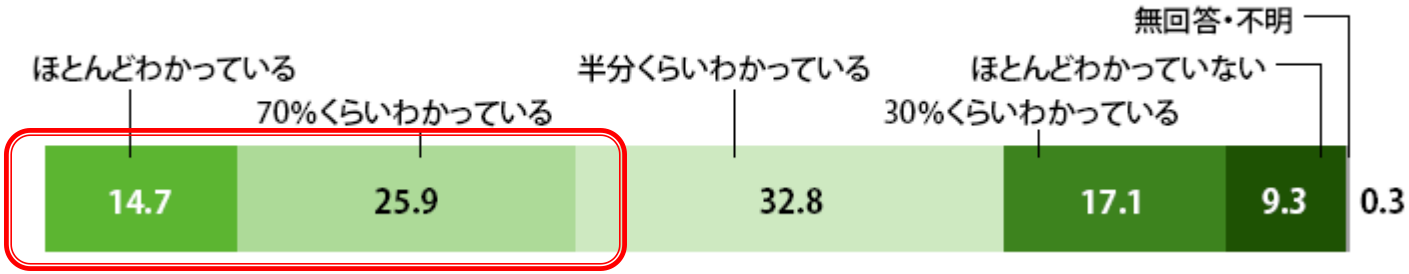
1.2.学校での姿 （3）中学校での英語学習 ①英語の授業理解度

「ほとんどわかっている」「70%くらいわかっている」中学生は合わせて約4割

Q:あなたは、学校の英語の授業をどれくらい理解していますか。

図9　英語の授業の理解度

（%）



n=2,967名、全国の中学2年生（公立校）について、市区町村の人口規模および人口密度を考慮した有意抽出方法

出典：Benesse教育研究開発センター「第1回中学校英語に関する基本調査（生徒調査）」速報版、2009年

© Benesse Corporation, 2009

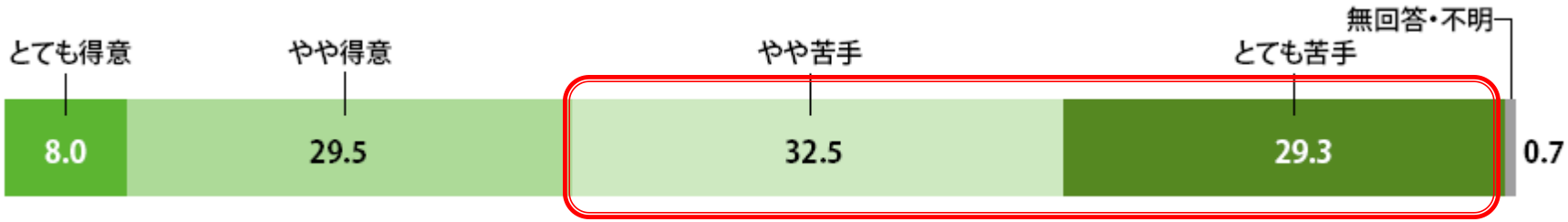
1.2.学校での姿 （3）中学校での英語学習 ②英語の得意・苦手

英語を苦手と感じている中学生は約6割。

Q:あなたは英語が得意ですか、苦手ですか。

図10　英語の得意・苦手

（%）



このうち、8割弱が「中1の後半」までに英語を「苦手」と感じている

n=2,967名、全国の中学2年生（公立校）について、市区町村の人口規模および人口密度を考慮した有意抽出方法

出典：Benesse教育研究開発センター「第1回中学校英語に関する基本調査（生徒調査）」速報版、2009年

© Benesse Corporation, 2009

2.2013年高校生1年生が経験する変化
① 2011年　小学校新学習指導要領　施行

2013年高校1年生の半数以上が、
小学校6年生で外国語活動（移行措置として）を経験

- 新学習指導要領（小学校）の特徴
  - 小5・6年生で年35h「外国語活動」（英語）必修化
  - 「英語ノート」を使用
  - 担任とALTによるT.T.を推奨
  - 評定なし

- 2013年高校1年生が経験していること
  - 移行措置期間　2009年～　（2013年高校生：2009年現在の小6生）
    ⇒移行措置段階での外国語活動
    約6割の小学校が必修化後の時数（週1）実施

（出典：文部科学省「平成21年度公立小・中学校における教育課程の編成・実施状況調査」より）

© Benesse Corporation, 2009

2.2013年高校生1年生が経験する変化

② 2012年　中学校新学習指導要領　完全実施

中3で新課程の英語を学び、新課程対応の高校入試を経験

- 新学習指導要領（中学校）の特徴
  - 語彙数増加（900→1200語）
  - 授業時数増（3h→4h）
  - 4技能統合型指導

- 2013年高校1年生が経験していること
  - 2012年（中3）中学校新課程施行
  - 高校入試：新課程対応の入試を受験

© Benesse Corporation, 2009

3．学ぶ側の課題
（1）現行課程の高校生の延長線から考えられる課題

- 学習意欲・学習時間の低下と二極化
  【課題】中・下位層の生徒の**学習意欲・学習時間**をいかに引き上げるか

- 大学入試が圧倒的な学習モチベーションとして作用していない
  【課題】どのような**モチベーション**が有効か

- 生徒は英語の実践的な必要性を感じつつも、指導は大きく変わっていない一方で、現課程が目指す指導を実践した学校で英語力が伸びた実態
  【課題】いかにして、**実践的な英語力**を伸ばすのか

- 中学校までで6割の生徒が英語につまづきを感じている実態
  【課題】**高校入学時**にどのように**対応**すべきか

© Benesse Corporation, 2009

3．学ぶ側の課題
(2)2013年高校1年生についての課題

- 小学校段階　**約6割**の生徒が週1時間の外国語活動*を経験

* 移行措置として

- 中学校段階　**中3で新課程の英語教育・高校入試**を経験

【課題】高校入学時点でどのように対応すべきか

いかにして高校卒業時の英語力を伸ばすか

© Benesse Corporation, 2009

ARCLE Action Research Center for Language Education

http://www.arcle.jp/

© Benesse Corporation, 2009